

基本ルール

□地区

3つの旧村単位で、現在も長陽地区、白水地区、久木野地区と呼ばれています。

- ・長陽：役場や阿蘇大橋がある地域。神話や昔話が多く残る。
- ・久木野：五岳の眺望が良く、移住者が多い地域。行事は公民館単位で行われることが多く、区長と別に「公民館長」が置かれる。
- ・白水：白川水源をはじめとする水源が豊富な地域。

□行政区

村内には37の行政区があり、それぞれに異なる歴史や行事、お金のことも含めたルールがあります。行政区の住人でお金を出し合ってゴミステーションや公民館を管理しています。加入は任意です。水利権や組合など、行政区ごとに昔ながらのルールが設定されていることもあります。

※未加入の場合、行政区によっては近くのゴミステーションを使えない場合もありますので、事前に区長に確認しましょう。

□小部落・隣保班

行政区のさらに小さい単位。隣近所のつながりです。葬儀の手伝いや清掃当番などは、この単位で実施することが多いです。まずは行政区に入って隣近所との交流を深め、希望すれば隣保班に加わるという流れになります。

□浄化槽

微生物の働きなどを利用して汚水を浄化し、きれいな水にして放流するための施設。新築の場合、下水道予定処理区域（村内では白水の一部のみ）以外では、水洗トイレからの汚水と、台所排水、浴室排水、洗濯排水などを一緒に処理する合併処理浄化槽の設置が必要です。

処理水の排水先については、区長等の承認をもらう必要があります。



□区長

37の行政区ごとに区長がいます。広報などの行政文書の配布、村民と行政との橋渡しが主な仕事。浄化槽から繋ぐ排水先なども、まず区長に相談することが多いです。ご自身が住む予定の行政区の情報を事前に区長に聞きに行くなどして、地域のことを知っておきましょう。



□区役

道路整備や清掃など、集落全体に関わる仕事は各戸から人を出して作業します。参加できない場合、過料（協力金）の支払いが発生することもあります。



□行事・祭り

行政区の人と交流を深めるチャンス。気軽に加わるイベントの準備から加わってみましょう。古くからの行事は元々の住人だけで続けているとうこともあり、初めは加わりにくいと感じるかもしれません。段階を踏んで関係性を深めていきましょう。



□葬儀手伝い

亡くなった方の自宅で葬儀を行う風習が残っているところもあります。家人に代わって、受付や食事の用意などを隣保班ごとに当番で手伝います。土葬が主流だった頃は、棺づくりや墓穴掘りも行っていたそうです。現在は葬儀場で行うことが増えたため、葬儀手伝いといえば受付のみという行政区も多くなりました。



集落で必要なお金 一例

□区費

ゴミステーションの管理、神社や公民館の維持、行事など、**行政区の運営費用**として世帯ごとに徴収されます（税金ではありません）。**行政区ごとに金額が異なり、変動することもあります。**収入源を持っているなどの理由から区費がない地域もありますが、「区費がないから楽」ということではありません。**その行政区の事情をしっかりと把握して移住先を検討**しましょう。

□社協・赤い羽根関連費

社協の地域福祉活動に充てられます。区費と併せて徴収される場合と、個別に徴収される場合があります。

□消防費

消防や火災予防などの**災害対策、消防団の運営費**に充てられます。行政区に入らない場合でも、消防費は納めているというケースもありますので、区長に確認しましょう。

□その他費（公民館費、祭り費など）

公民館維持費、行事に当てる費用を別途徴収する場合があります。

□日当

行事によっては、参加者に謝金が出る場合があります。

□協力金（過料）

行事によっては、**自身が参加できない場合の代替として、一定額の支払いが必要な**ことがあります。

□水道

ほとんど村営水道ですが、**一部、地元の管理組合が管理**しています。**管理組合加入費として数十万円かかることがあります**ので、事前に確認しておきましょう。



風土や歴史

□野焼き

1000年以上にわたり人の手で守られてきた阿蘇の草原。特異な環境を維持するため、毎年春に野焼きを行っています。関連作業に秋の輪地切りがあります。高齢化、人手不足により継続が困難になっている地域もあります。

□神社

ほとんどの行政区に神社祭りがあります。自然との共存、水の大切さ、豊作への感謝など、思いを込めて神様を祭っています。水神、火の神、豊穡の神、家畜の神の名前を聞くことが多いです。

□あか牛

江戸時代頃から、阿蘇地方では「あか牛」と呼ばれる褐色和牛が飼育されてきました。牧野で放牧されている姿を見ることができます。



通園・通学

□保育園バス、スクールバス

長陽・白水・久木野にそれぞれ保育園と小学校があります。中学校は長陽の南阿蘇中学校のみです。保育園バスとスクールバスが整備されています。小学校通学は、徒歩またはスクールバス。中学校は自転車通学の生徒もいます。

